

がPDJ優秀論文賞、中村仁美先生がデンツプライ賞をそれぞれ受賞しています。さらに、木村光孝名誉教授は、退官後の平成19年に日本歯科医学会会長賞を受賞しました。

臨床では、口腔外科、矯正科、歯科麻酔科、歯科放射線科と連携をとりながら、小児の口腔健康増進を図っています。専門医指導医2名、専門医4名が診療にあたり、1年間の外来患者数も2005年5522名から2011年8625名と大幅に増加しています。また日本小児歯科学会認定の専門医も我々の分野および同門会員より2006年以降6名取得し、地域医療の小児歯科の中核としての礎を築きつつあります。



九州大学大学院歯学研究院 口腔保健推進講座小児口腔医学分野のこの十年の変遷

このたびは日本小児歯科学会九州地方会三十周年記念おめでとうございます。

さて、九州大学歯学部は大正11年5月に発足した医学部歯科学講座が基礎となり、昭和42年6月に医学部から分離独立し、新たに歯学部として設置されました。その後、昭和54年4月に小児歯科学教室が開設され、中田 稔先生が初代教授（現名誉教授）として就任されました。その後、口腔保健推進学講座 小児口腔医学分野と改称され、平成15年より野中和明先生が教授に就任され、今年で10年を迎えます。

この間、われわれを取り巻く環境は大きく変化しました。そのひとつとして平成18年4月より外来診療室が、九州大学病院小児医療センターの一翼として、小児科や小児外科と受付を共にする同じフロアーに設置されたことが挙げられます。これにより、さまざまな全身疾患や障がいを抱える小児の口腔医学の実践を臨床・研究の両面で、これまで以上に推進することができるようになりました。たとえば、臨床面では全身麻酔下で行う治療のニーズが飛躍的に増加し、現在は毎週、月曜日、水曜日および木曜日に1例ずつ行っています。そして今もこのようなニーズは増加し続けています。これに対しわれわれは、安全性を維持しながらより迅速に対応できるよう、さらに診療環境を整えることを重要課題のひとつとして取り組んでいます。一方、研究面では、永久歯への交換により脱落した乳歯の歯髄組織より単離培養した間葉系幹細胞を、様々な細胞へ分化させることを試みています。またその成果をもとに、さまざまな疾患の治療につなげることを目標とした基礎的研究にも力を注いでいます。そのほか、胎児が母体から受ける影響が、胎生期の環境要因として小児の先天性疾患の発症にどのように関与するかを解明する研究にも取り組んでいます。

これからもわれわれを取り巻く環境は変化し続けるでしょう。しかし環境の変化に適応しながら、当教室が開設されて以来の基本理念のひとつでもある、顎顔面・口腔領域の成長発達に関する基礎的研究および臨床、またその教育を実践することに関わりありません。現在、当教室は野中和明教授以下、講師3名、助教4名、大学院生2名、医員4名、研修登録医2名、特別研究員1名、事務補佐員1名で構成されています。教室員全員が力を合わせて小児口腔医学を実践しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

